

短歌の庭 -ひとみそもじのにわ-

テーマ「旅」

令和7年9月28日（日）13：00～15：30

紀伊國屋書店札幌本店 インナーガーデンにて開催

国学院大学北海道短期大学部

詠 草

お名前・雅号

列車にてワンカップ酒飲むことに憧れ今も果てなき旅路

森田直也

我の背を越えたる君にひげ剃りの手ほどきをする旅先の宿

すずきなずな

此の町は花とランチのニュースだけかなしみ見ない旅に出ただけ

丸ヶ崎結子

木曽川の面しづけ手をのべて底に眠れる猛者まうざを掬ふ

瀧本倫子

八月を通過してきた体から徐々に抜けゆく飛行機の音

中村ハルカ

さよなら熊猫パンダ見知らぬ故郷へ運ばれて海帰の暮らしは優しいだろうか

恵光

ギャラリーで出逢ひし皿に惹かれて若き作家の心意気かふ

柚子クリーム

地図の上辿りし道を赤く塗る傘寿の父の見果てぬ旅路

南以久子

一枚のモネの絵画が今われを遠き旅へと誘っている

小西和子

鉄砲の伝来からの五〇〇年種子島から飛び立つロケット

金子真理子

甲板に妻子と夏の沖見つむハ甲田丸鳴らせよ汽笛

堀本裕樹

熱いとか冷めたとかなんて消え去ってそろそろ一人で旅にどうか

矢澤保

マイウエイさびの辺りで終えたくも未練がましや旅の残り香

手嶋孝康

ウトナイ湖の水際みぎわに拾う菱の実のひりひり冷ゆる如月の旅

高橋金也

雲海のかなたに夕陽沈みゆき浮くシルエット燃ゆる赤富士

對馬英一

so cute! シフォンスカートは見初められハワイの海の夕陽を吸って

絹真結子

うつそみを旅して漸う八十路たり然て残年を如何でかは生く

酒井敏明

旅っちゃあ旅なんだけど地元民のつもりで百均なんて見てみる

山田航

できるだけ遠くの土を思いたい 知ろうとしないことは罪だよ

もくめ

旅行記をつまびらくとき今はない線路を指で辿ってしまう

高城顔面

太陽に照らされ歩む君を見送るブルーライトに照らされながら

茉莉花

長旅を終へ還り着くドアのごとく きみの鍵穴に鍵挿し入れる

月岡道晴

作品 番号	詠 草	お名前・雅号
	忘れない 恵子さんの歌 最期の歌 「何も持たずに独りで行く旅」	弥生
	遙かなる旅を続ける光の帯 スマホ片手に あかね空見る	乃莉
	旅先にやり残して忘れ物回収したいねまた行きたいね	武田晴翔
	針を刺す／極彩色の火の海で回るバレリーナの嗤い声	佐藤和孝
	駅前の冷えたホテルに戻り来て名刺を並べ似顔絵を描く	吉田有
	「お茶買ってー」泣き叫ぶ子のサンダルが投げられはねた出発ロビー	興梶江里佳
	雨がやみ隣の町の友から電話「今降りだした」雲が旅する	井上治子
	仙台の並木へ巡る涼しさにいつまでも外してたマスクだね	海吉行平
	きげん良く二人も使っているだろかおそろいで買った馬油シャンプーを	錦織道子
	満月の裏側へゆくバスに乗る あ、これ整理券とるタイプ？	柄谷月子
	A型のあなたは行かない 水槽にクラゲを飼ってこの森で暮らす さがわともこ	北野都
	トランクに入らぬものは思い出と土産話の一つにかえる	
	うねる海アップダウンの船室に不安を胸に青森へ行く	佐久間このみ
	錆びついた稲穂に風を浴びせつつ特急列車は都市へと進む	小西電波
	沖縄と北海道を旅すればオセロ盤では全国制覇	田中琢士
	鴨川の飛び石渡らん吾の先に左手伸ばす君ゐる薄暮	安味暁美
	薄闇に希望は満ちて三日分抱えて歩く足まではずむ	檜山あさね
	恋人の聖地厚田の柵にある南京錠たち錆びついている	川島祥生
	通過点でしかない空の上からきみのいる街を探していた	浜出灯子
	穴あきのかばんを背負って貴方似の歩き方で渡る鬼の世	長部愛梨
	浮雲にふはりと乗りて旅に出る君と連れ立つ碧い海の街	長谷川敬子

ご応募いただいた作品の中から、掲載のご承諾をいただいた作品を紹介しております。
(順不同)